



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年2月2日

上場会社名 株式会社ダイショー 上場取引所 東
 コード番号 2816 URL http://www.daisho.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 松本 洋助
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 松本 俊一 (TEL) 092-611-9340
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の業績 (2020年4月1日~2020年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	17,591	6.3	1,270	68.3	1,279	56.0	863	56.2
2020年3月期第3四半期	16,545	1.6	754	△7.2	819	△0.9	552	△0.6
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2021年3月期第3四半期	89.47		—					
2020年3月期第3四半期	57.28		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	16,065	8,908	55.5
2020年3月期	14,209	8,188	57.6

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 8,908百万円 2020年3月期 8,188百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
2021年3月期	—	9.00	—		
2021年3月期(予想)				9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の業績予想 (2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,000	4.2	850	53.1	850	37.4	530	31.0	54.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2021年3月期3Q	9,868,800株	2020年3月期	9,868,800株
2021年3月期3Q	216,088株	2020年3月期	216,088株
2021年3月期3Q	9,652,712株	2020年3月期3Q	9,652,712株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により国内・外の経済が急激に減速に転じるなど、極めて厳しい状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、感染症拡大の影響による外出自粛の動きが広がり、巣ごもり消費の需要から生活必需品である食品の消費は拡大したものの、社会不安からの消費者の生活防衛意識や節約志向、食の安全への希求の高まりなど、多くの課題が山積する経営環境が続きました。

このような状況のもと、当社は、2022年3月期までの中期経営計画に沿い、収益力の高い主力ロングセラー製品の拡販に注力する原点への回帰と、新時代における持続的成長を目指す事業活動を大きな柱とし、その実現に向けた重点施策に取り組み、業績の向上を目指してまいりました。

製品群別の概況は、以下のとおりであります。

液体調味料群においては、主力製品の販売に経営資源を集中させ一層の拡販に努めるなか、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で家庭内での食事機会が拡大したこともあり、小売用製品が好調に推移しました。特に『秘伝 焼肉のたれ』、『博多もつ鍋スープ』、『キムチ鍋スープ』といった主力ロングセラー製品が、大きく売上を伸ばしました。鍋スープ類では、通年製品化に注力すべく、製品面・販促面での方策を実施いたしました。新製品では、通常の鍋に比べ気温の影響を受けにくい「しゃぶしゃぶ」に着目した「しゃぶ鍋」関連製品7アイテムを投入し、ラインアップを大幅に拡充いたしました。また「夏鍋」をテーマとした販促プロモーションを展開し、夏野菜メニューやスタミナメニューを訴求するとともに、ウェブCMの展開やインスタグラム投稿キャンペーンを実施いたしました。商戦が本格化した秋冬期においては、12月の強い寒気による全国的な低気温もあり、鍋スープ類は主力製品を中心に大きく伸長し、『柑橘とり鍋スープ』などの新製品も好調に推移しました。業務用製品では、新規開拓への取り組みを継続するなか、内食市場の拡大の影響もあり、『照焼ペッパーソース』などの精肉向けのソースが伸長しました。この結果、売上高は125億60百万円（前年同期比107.5%）となりました。

粉体調味料群においては、『味・塩こしょう』シリーズが詰め替え用を中心に好調に推移し、リニューアルした『もちもちねぎチヂミの素』や、主力製品の『きのこがおいしい!アヒージョの素』などが巣ごもり消費の需要拡大を受け、大きく売上を伸ばしました。この結果、売上高は31億57百万円（前年同期比102.6%）となりました。

その他調味料群においては、新製品『ばくばくキャベツ用セット』が姉妹品の『レタスがおいしい パリ麺サラダ用セット』とともに売上を牽引し、あらたに『コバラにうれしい 5つの味のスープはるさめ』を投入しラインアップを充実させた「スープはるさめ」類も好調に推移しました。この結果、売上高は18億73百万円（前年同期比105.0%）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は、175億91百万円（前年同期比106.3%）となりました。利益につきましては、営業利益は12億70百万円（前年同期比168.3%）、経常利益は12億79百万円（前年同期比156.0%）、四半期純利益は8億63百万円（前年同期比156.2%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ18億56百万円増加し、160億65百万円となりました。固定資産が総資産の50.0%を占め、流動資産は総資産の50.0%を占めております。主な資産の変動は、「受取手形及び売掛金」が22億9百万円増加し、「現金及び預金」が3億12百万円減少したことによるものです。

負債は、前事業年度末に比べ11億35百万円増加し、71億56百万円となりました。流動負債が負債合計の73.6%を占め、固定負債は負債合計の26.4%を占めております。主な負債の変動は、「未払金」が6億23百万円、「買掛金」が5億35百万円、「未払法人税等」が2億56百万円それぞれ増加し、「賞与引当金」が1億91百万円、「長期借入金」が1億24百万円それぞれ減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べ7億20百万円増加し、89億8百万円となりました。主な純資産の変動は、剰余金の配当1億73百万円の支出と四半期純利益8億63百万円の計上により「利益剰余金」が6億89百万円増加したことによるものです。自己資本比率は55.5%となり、前事業年度末に比べ2.1ポイント下降しました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

「業績予想の修正に関するお知らせ」(2020年10月28日に公表)において発表いたしました通期の業績予想からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産または流動負債として繰り延べる方法を採用しております。

②税金費用の計算

当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,985	1,673
受取手形及び売掛金	2,770	4,979
商品及び製品	771	925
原材料	304	365
その他	223	116
貸倒引当金	△17	△27
流動資産合計	6,037	8,033
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,355	2,276
土地	2,677	2,677
リース資産(純額)	911	714
その他(純額)	941	1,023
有形固定資産合計	6,884	6,692
無形固定資産	129	156
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,162	1,188
貸倒引当金	△5	△5
投資その他の資産合計	1,157	1,183
固定資産合計	8,171	8,032
資産合計	14,209	16,065

(単位:百万円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,618	2,153
1年内返済予定の長期借入金	166	166
未払金	1,137	1,760
未払法人税等	107	364
賞与引当金	412	221
その他	496	603
流動負債合計	3,938	5,269
固定負債		
長期借入金	208	84
退職給付引当金	436	448
役員退職慰労引当金	612	637
その他	825	718
固定負債合計	2,083	1,887
負債合計	6,021	7,156
純資産の部		
株主資本		
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	6,994	7,684
自己株式	△114	△114
株主資本合計	8,130	8,820
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	57	88
評価・換算差額等合計	57	88
純資産合計	8,188	8,908
負債純資産合計	14,209	16,065

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	16,545	17,591
売上原価	9,537	9,908
売上総利益	7,008	7,682
販売費及び一般管理費	6,253	6,412
営業利益	754	1,270
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	2	2
不動産賃貸料	5	5
保険解約返戻金	16	—
受取補償金	40	—
その他	14	12
営業外収益合計	79	20
営業外費用		
支払利息	10	10
固定資産圧縮損	3	—
その他	0	0
営業外費用合計	14	11
経常利益	819	1,279
特別損失		
固定資産除売却損	7	0
特別損失合計	7	0
税引前四半期純利益	812	1,279
法人税、住民税及び事業税	259	415
法人税等合計	259	415
四半期純利益	552	863

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

該当事項はありません。